

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)(検討会への報告案)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
競争力と持続力を持つ交流6次化モデルの構築特区 (山梨県南アルプス市)	3.4	3.6  進捗度 ・耕作放棄面積 83%  ・農業従事者 101%  ・農業所得 101%  ・市人口社会増減数 480%  ・観光入込客数 65%  ・地域資源を活用する民間企業の誘致数 33%	2.8  地域独自の取組 ・雇用創出奨励金事業  ・南アルプスブランド戦略事業  ・農業次世代人材投資事業  ・中高年の新規就農者支援事業  ・若者世帯新築支援事業 等	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>「耕作放棄地面積」は増加傾向にあり、耕作放棄抑止の対策が必要である。ただし、総量が多いので、やはり耕作放棄地をカテゴライズし、復旧の必要性の有無や緊急性などを峻別した上で対策をとることが必要と思われる。</li> <li>農業従事者が増加に転じているのは高く評価ができるが、これは就農者の増加(7名)以外の人数が多い。その要因について、今後、分析する必要であろう。</li> <li>農業産出額と農業所得が大きく伸びているが、その要因についての分析を行う必要がある。それを行うことで今後も農業が成長する余地がどれくらいあるのか、そのために求められる支援は何かを明らかにすることができるのではないかと考える。</li> <li>「市人口社会増減人数」については、社会減を徐々に減らす目標を立てているのに対し、既に社会増を実現し、しかも年々増加傾向にあり、その傾向は顕著である。評価書中には、県内移動によるものとネガティブな評価になっているが、若者の進学による県外移動→その後の県内就職→婚姻の際に子育て環境のよさを求めて県内から移動、といった流れであれば、むしろ望ましい動向とも言える。世代や家族形態なども踏まえたより深い分析が必要ではないか。</li> <li>新型コロナによる経済の縮小は一時的な外生的なショックで、これからが正念場となるだろう。農や食を含めた地域資源を自分に利用することを考えてこれから運用される南アルプス市らしい6次化モデルに期待したい。</li> </ul>